



第9回 入学式 ～桜の花に包まれて

4月6日に総合学科としての最後の入学式が行われました。桜の花の満開の時期は過ぎていましたが、華やかな色に包まれさわやかな風がそよぐすばらしい日となりました。

総合学科としての、今までの教育活動の成果を、入学生の皆さんの教育に結実させたいと思います。この学校の歩みの集大成を体現してもらいたいものです。

式辞の一部を引用します。



「では、高校で何を学ぶのか。

総合学科で何を学ぶのか。

高校の勉強は中学の勉強よりも難しい内容です。将来、役に立つのかというと、日常生活を送る上で困ってしまうことはないと思います。日常に必要な知識はすでに、中学校までに大体学んでいます。

高校の学びは、先ほどお話したように難しい内容です。その難しい内容を、ねばり強くあきらめることなく理解しようとするのが大事です。英語なら、単語を調べ、文法を調べ、訳を考え、知識を総動員して、考えて考えて、訳して理解する。数学なら、公式を使いながら、問題をどうやったら解けるか、知恵を絞って、繰り返し、いろいろな可能性を試しながら、答えにたどり着く。そうやって、簡単にできないことに取り組んでいくことが大事です。

そういう、粘り強い取り組みが、将来、社会に出たときに力を発揮する。粘り強く取り組むことが習慣となるまでやらないといけません。きっと君たちの幸せにつながっていくはずですよ。本当に君たちがやりたいことを見つけた時に、しっかりと粘り強く取り組む姿勢ができていれば、君たちの力を思う存分発揮できるはずですよ。そのための準備を高校でしてください。

総合学科で何を学ぶのか。自分の将来の方向性や職業の分野を常に意識していくこととなります。特に科目選択。もう、将来の方向性を決めている人は、そういう科目を勉強します。

将来はまだ見えていないが、いろいろ試してみたい人。こういう人が一番多いはずですよ。英語以外の外国語を学んだり、将来、企業に勤める人が多いことから、ワープロの検定を目指す授業を選択したり、簿記の授業を受けたり、ビジネス基礎の講座で学ぶ。もち

ろん、大学に進む人は進学に必要な授業を選択することになります。

自分の可能性を試すことで、自分の知らない自分を見つけることができるかもしれません。きっと、まだ現れてきていない力があるはず。だから、高校で、総合学科で、粘り強く取り組む姿勢と自分の将来を考え可能性を試してみることを追求してください。

学校は勉強だけではありません。君たちを成長させる場面はたくさんあります。文化祭、体育祭といった学校行事。思いっきり力を発揮できるはずですよ。部活動は是非、全員が加入してください。それこそ、社会に出て必要な力を身につける絶好の機会です。

学校は、皆さんが将来、幸せになるために必要なことを学んでもらう場所です。勉強によって知識や経験を学び、合わせて、自分を高めるために努力することや自分で自分をコントロールすることを学び、人と人がつながりあい大事にしあう、社会人として必要なことを学びます。

この緑園総合の3年間で、将来の幸せにつながる大事なことを学んでください。」

単位制普通科高校として目指すもの

総合学科から普通科へ改編することとなり、校内では急ピッチで改編計画を検討しています。

総合学科特有の系列の科目(福祉・環境・国際・商業)は設置せず、普通科として共通教科・科目を中心に学習指導を行ってまいります。

制度として残せない総合学科の特徴は除いて、基本的には緑園総合のこれまでの取り組みを継承しつつ、改善すべきは改善することを校内で確認しています。

1、2年次生は1校時から6校時まで、3年次生は1校時から4校時まで、クラス単位を中心に学習します。単位制の利点を生かし、3年次は各自の進路や興味・関心に応じて科目を選択できるようにします。

緑園総合の長所の一つは、講演・体験内容を個人やグループでまとめ、発表する機会を多く設定してきたことにより、プレゼンの完成度が高いことです。その長所を新しい学校でも様々な形で活かしていきます。

国社数理英を中心に進学に必要な学力を身につけながら、芸術・体育・家庭・情報の実技系科目で教養を高めていきます。

県に示された本校のミッションは「学力を育成し、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することを目指した学校づくり」です。

今後も検討を重ね、より具体的な内容をお伝えしていきます。 校長 遠藤 誠